

第12回「泉大津市オリアム随筆賞」

【オリアム随筆賞（優秀賞）】

奇跡の通園かばん

後藤 里奈・東京都杉並区

「手作り通園かばんのお願い」

娘の幼稚園から貰ってきたお便りを前に、私は深いため息をついた。その日、娘が春から通うことになった幼稚園で入園前の説明会があり、そこで私はこの事実を知らされた。その幼稚園では、園児の通園かばんを毎年保護者が作っている。しかし、それは我が子のもではない。出来上がったかばんは入園式の前までに幼稚園へ送る。すると、そのかばんは自分の子供のもとへ行かないようにシヤツフルされ、他の園児のもとへ渡るのだ。かばんは入園式当日、子供たち一人一人へプレゼントされる。保護者たちには白い無地のかばんが配られ、それに手縫いでオリジナルのデザインを入れるようになっていて、サイズはそれほど大きくないが、裏面もあるので結構時間がかかりそうだ。添えられた見本例を見ると、人気のキャラクターや可愛い動物のデザイン、ビーズやレースをあしらったものなど、売り物かと思ふほど趣向を凝らしたもののばかりで、私はますます気が重くなった。

さて、どうしよう……。裁縫が大の苦手な私は頭を抱えた。自分の娘が使うものなら多少失敗しても気にしないが、人様の子が三年間毎日使うかばんだ。下手なものでは作れない。悩んだあげく、私は小鳥のデザインに決めた。形がシンプルで、不器用な私でも形になると思うのだ。それに幸せのシンボルでもあるので縁起も良い。一週間、悪戦苦闘しながらなんとか完成した。

そして、迎えた入園式当日。私は娘に手渡された通園かばんを見て目を見張った。そこには聖母マリア様の毛糸刺繍が一面に施されていたのだ。（娘の幼稚園はキリスト教が母体となっている）マリア様の慈愛に満ちた表情まで緻密に表現され、一針一針に込められた想いがひしひしと伝わってきた。いったいどれほどの時間と手間がかかったことだろう。私は自分の作ったかばんを思い浮かべて恥ずかしくなった。

その日の夜、私は早速娘の通園かばんに名前を書こうとすると、中に何かが入っていることに気がついた。見ると、きれいな封筒に「このかばんを受けとってくれた方へ」とあり、中に手紙が入っていた。そこには、「初めまして。私はこのかばんを作った母親です。デザイン気に入っていただけでしたか？実は先日、私はお医者様から余命半年と宣告されてしまいました。今も入院中のため、入園式に出られるかどうか分かりません。でもこのかばんだけは作り上げたくて、一生懸命作りました。これからの幼稚園生活が、愛と希望に満ちたものになりますように」と書かれていた。私は丁寧な文字で綴られたその手紙を何度も読み返し、特別な想いの込められたかばんをそっと抱きしめた。そして、どうしてもこのお母さ

んと直接会ってお礼を言いたいと思った。しかし、幼稚園のきまりで、誰が作ったのかは言い合ってはいけないことになっている。

迷ったすえ、私はルール違反を承知で担任の先生に事情を話し、「どなたが作ったのか教えていただけませんか？」とお願いした。すると先生は「本当は明かしてはいけないことになっているのですが…」と言い、このお母さんが先日亡くなられたことを教えてくれた。入園式には無理を押しして来たそうだが、幼稚園に来られたのはその一度だけ。その後病状が悪化してしまったそうだ。幼い我が子を遺していくことは、どんなに無念で悔しかったことだろう。愛する我が子の成長を一日も長く見ていたかっただけだ。同じ母親としての気持ちを想像すると、胸が張り裂けそうだった。

しかし、小さな奇跡は起きていた。そのお母さんの息子さんは、娘と同じクラスにいることが分かったのだ。ある日、幼稚園へお迎えに行くと、娘は活発そうな男の子を指さして「あの子が〇〇くん！」と教えてくれた。肩には小鳥の通園かばんをかけている。私は思わず男の子に近づいて声をかけた。

「こんにちは。そのかばん、似合ってるね。」男の子は「うん！」と言うと元気に友達のもとへと駆けていった。その様子を見て安心すると同時に、彼のお母さんもきっと天から見守っているに違いないと強く思った。

彼はあの素敵なお母さんから、一生分の愛情を受けたのだろう。「これから先も、多くの人たちの愛に囲まれて、笑顔と希望に満ち溢れた人生を送れますように」と、心の中で祈った。娘がもう少し大きくなったら、この通園かばんに込められた想いについて話してあげようと思う。このかばんは、私とあのお母さんとの絆を結ぶ、大切なお守りでもあるのだから。